広報伊方町

発行所　愛媛県西宇和郡伊方町
編集　町長公室
印刷所　尾上印刷所　八幡浜市天神通　電話④0091番

迎春

すがすがしい一九七七年の夜明けをみなさん明けましておめでとうございます。

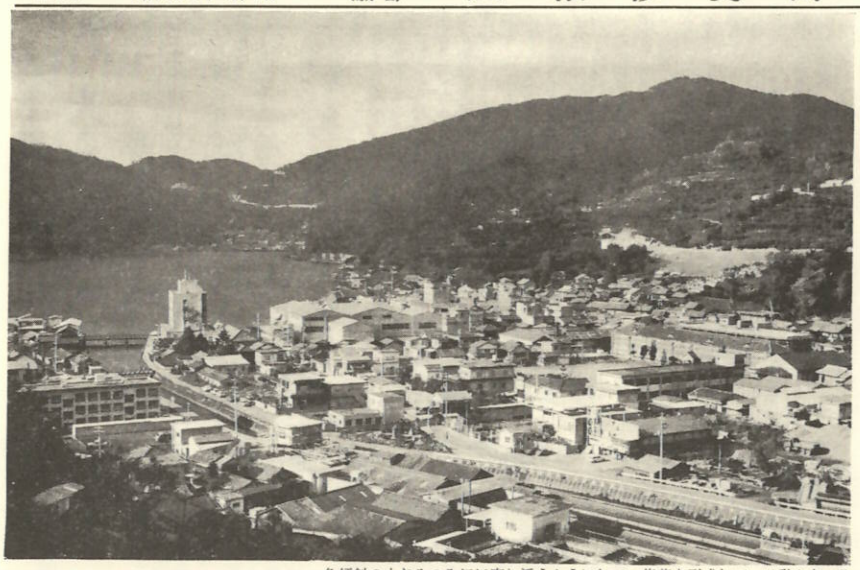
本町が大きく飛躍する年がやってまいりました。

本年は、四国で初の〝第三の灯〟原子力発電所の灯がともり、いよいよ運転が開始されます。

また、佐田岬半島の大動脈となる国道バイパス線建設工事も順調に進んで行きます。

こうしたかって私たちが経験したことのない激動期にある伊方町が、将来像を適格に見極め、すべての人たちが快適に住める町づくりにはげまなくてはいけません。

みんなの英知と協力で……



自然美と人情味の町

急傾斜の山なみの入江に寄り添うようにして、集落を形成している私たちの町「伊方町」　そこには、本町特有の恵ぐまれた自然と人情味豊かな人たちが住んでいる。　近い将来、多く訪れるであろう観光客が、伊方は〝自然美と人情味がすばらしい〟とよろこばれる町にしたいものです。

年頭あいさつ

調和のとれた明るい町に

町長　山本長松

輝やかしい昭和五十二年の新春を迎え、ご一同様のご健康を心よりお喜び申し上げます

町内のみなさんも遠く町外でご活躍の方々も新しい年を希望と抱負で楽しくお迎えのことと存じます。

一昨年来の深刻な不況は、依然として低迷を続けています。

このようなかってない緊急事態とも思われる経済情勢の中で本町の基本構想にえがいた「将来の姿」の早期実現をどのように推進するか、充分検討のうえ一層の努力をいたしたいと存じます。

従来の諸施策はもとより、原子力発電所誘致に伴う電源立地促進対策交付金事業を中心に、地域社会の生活環境の整備、生産及び生活の基盤強化、住民福祉の向上等、地域開発を積極的に推進いたす所存であります。

また、原子力発電所の建設は、着々と進み本年は運転開始がまたれていますが、騒然事項であります発電所周辺の安全確保及び環境保全につきましては、地域住民に充分信頼されるよう一段と努力を重ねる覚悟であります。

私は、このときにあたり伊方町個有の特色を生かし、調和のとれた豊かで明るく、そして活気に満ちあふれた町づくりを町民全員の英知と努力と協調心によって実現したいと考えるものです。

このすがすがしい新春にあたり、さらに町民福祉の向上と町政発展のために全力を注ぎ躍進の年とすべく決意を新たにいたしております。

何とぞ相変らぬご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げ、所感の一端をのべ年頭のあいさつといたします。

勇気と和の運営を

議長　辻忠義

輝やかしい昭和五十二年の年頭にあたり、つつしんで新年のごあいさつを申し上げます。

町民のみなさん

明けましておめでとうございます

町村自治にたずさわる私どもは常に姿勢を正して、さらに良識をつちかい何事にも勇気をもって、町民のみなさま方とともに、大きい和によって、町村自治の振興に努め、町民の信頼に応えたいと決意を新にするものであります。

こんども町民のみなさまのあたたかいご支援をお願い申し上げ新年のごあいさつといたします。

中央公民館

久万町公民館と姉妹館に

交流深め　社会教育の振興めざす

環境のちがった山と海の公民館が、それぞれ資料を提供し、交流を深めました。

上浮穴郡久万町と本町の中央公民館が、おたがいに社会教育の振興をはかろうと姉妹公民館の契を結びました。

高原の町久万町と浜っ子の本町は、地理的には海と山で全く反対の条件ですが、人口（久万町約九千七百人）や産業など町勢規模が同じぐらいであること、また九州四国、本州を結ぶマイクロウェーブ（無線中継所）が堂々山と久万町東明神に設置され直線に結ばれていることなどから縁結びができたものです。

両公民館では、それぞれの特色を生かした公民館活動を行なっていますが、異なった環境を有する公民館が資料を提供し、交流と研修を深めることによって活動面で有意義に活用しあうため、両公民館が姉妹関係をつづけることになりました。

姉妹協定書の調印式は七月九日、十日の二日間、久万町中央公民館において、河野修久万町長、小椋秀雄教育長（中央公民館長）はじめ社会教育関係者本町より高月教育長ほか公民館関係者、両町あわせて約五十人出席して行なったほか、研修会が開かれました。また、十二月六日、七日の二日間、こんどは本町の中央公民館へ久万町から小椋教育長ほか社会教育、公民館関係者二十五人が訪れ交流会を開き山本町長、辻議長、高月教育長の歓迎のことばがあり、そのあと久万町から提案の研究課題について話し合いました。

県下でも公民館活動、社会教育の進んでいる町として知られる久万町との交流で、本町の社会教育公民館活動がより一層充実されることを願うものです。

こんご両公民館は、相互に友情親善、研修を深め実践活動に役立てるほか、青年団、婦人会など社会教育団体の交流を深める計画です。

積載車ことしも三台購入

第九・十五・十六分団に配置

消防力の強化をめざす町では、小型動力ポンプ積載車を昨年の七台につづいて、ことしも三台購入し第九分団（豊之浦）、第十五分団（西、久保）、第十六分団（二見）へ配置しました。

この積載車は、乗車定員九人乗りの一トン車（排気量一五〇〇CC）で一台百六万円の費用を投入し昭和五十一年度電源立地促進対策交付金事業で購入したものです。

〝防火デー〟にあたる十二月一日役場横の駐車場で町長、消防団長関係分団役員等多数が列席し入魂式を行ないました。

その式上、吉川団長より積載車のキーが各分団長に手渡され、それぞれ配置につきました。

積載車は、常時小型動力ポンプを積んで待機しており、いざ火災発生と同時に迅速に行動ができるわけです。

これで十九所の分団に配置されましたが、こんご伊方町消防力の強化と機動力アップに大きく寄与することでしょう。

積載車が町内を走りまわるようでは困ります。くれぐれも〝火の用心〟を！

謹賀新年

◎役場

町長　山本長松
助役　福田直吉
収入役　岩井正
総務課長　木戸五雄
町長公室長　脇田道
企画財政課長　脇田佳明
税務課長　二宮長幸
福祉課長　二宮一
住民課長　大森次郎
建設課長　山口和哉
産業課長兼農委会事務局長　西田恵明
生活環境課長　成田希儀
国土調査課長　市尾隆志
副収入役　桝田信夫
支所長　林鍛
職員　一同

◎教育委員会

委員長　栗田龍彦
教育長　高月歌芳
次長　田中発
給食センター所長　兵頭定
委員・職員一同

◎議会事務局長　岩見正志

◎区長

大浜　吉谷利一
中之浜　中田丈継
仁田之浜　米沢弥生
河内　山口行高
湊浦　梶田広明
湊浦　二小林一男
小中浦　大通孝行
伊方　越崎田冨士弥
亀浦　山口寿男
中浦　足利保
川永田　阿部嘉明
二川　川口照雄
豊之浦　中川孝平
奥　渡辺浅親
堀内一長
向　畑　得能作彦
須賀田口忠義
久保　西内鶴光
西　根来昌則
二見　山田孝志
加周　笹田長司
田之浦　山岡明敏
古屋敷　津田藤一
大成　古田好彦
鳥津　竹上耕一
木戸市弘
井上鶴敏
重岡雅樹
山口兼夫
古田官
福田弘
井桜蕉造
兵頭熊一
梶田忠義

町議会議員（議席順）

辻忠義
二宮頼志
高野遠
中元清吉
高田健一
加藤惣一
矢野吉衛
篠川英一
永井隆英

六十八人が大人の仲間入り

成人式―一月十五日

一月十五日は・成人の日・で五年から遡去七年間、全成人者が洋服姿で出席しています。ことしの場合も定着化した洋服姿で全員が出席願うことになっていますので、よろしくご協力を願います。

成人＝きまり文句ですが、一社会人として選挙権などの権利が与えられると同時に、義務と責任が生じてまいります。

いよいよ大人としてのスタートです。すでに自分の人生観、目標にむかって進んでいる人、また、この時にあたり心機一転を期するこの名簿は住民基本台帳から該当者（昭和三十二年一月一日から十二月三十一日までに生まれた人）を調査したものです。

その結果、成人者はことしの場合六十八人（男四十四人、女二十四人）ありました。

この数字は昨年にくらべ四人減少しています。

このほかに該当する人で、名簿もれになっている人、また町外から帰って伊方町の成人式に出席を希望される人、町外の方で伊方町で働いておられ本町の成人式に出席したい人は中央公民館まで早急に申込んでください。

中央公民館　電話八―〇二〇

◇　◇　◇

なお本町の場合、成人式出席の服装の乱れが実を結び昭和四十五年から過去七年間、全成人者が洋服姿で出席しています。ことしの場合も定着化した洋服姿で全員が出席願うことになっていますので、よろしくご協力を願います。

成人＝きまり文句ですが、一社会人として選挙権などの権利が与えられると同時に、義務と責任が生じてまいります。

いよいよ大人としてのスタートです。すでに自分の人生観、目標にむかって進んでいる人、また、この時にあたり心機一転を期する人、それぞれであろうかと思いますが、みのり多い人生をおくられることを願うものです。

はたち（二十歳）の春　おめでとう

大浜（男一人）
吉平　勉

中之浜（男一人　女一人）
竹内虎雄　辻和子

仁田之浜（男六人　女三人）
寺谷喜一郎　押川幸広　川上勉
石川次郎　渡辺保夫　豊田吉見
島本輝子　米沢美子　中元三智子
河内（男二人）
上田勝彦　松田幸夫

湊浦（男五人　女三人）
宝田郁夫　後藤松夫　西田健司
井上一夫　細川儀一　上野千代
屠蘇登代　武田美恵

小中浦（男二人　女一人）
矢野誠一　赤塚部治　吉本まさみ

中浦（女一人）
成田喜香

川永田（男四人女二人）
田中正芳　田中信安　高門洋一
川崎次郎　栗田美恵子　朝井清代

川永田二（男三人）
登口正文　中川洋也

豊之浦（男四人　女四人）
井上豊和　中田信幸　井上博文
辻憲　水口知佳子　辻彩生　岩見真喜子　井上文恵

伊方越（男三人）
木下寮治　義野昭　神野和生

向（男二人　女一人）
浪下利東　川内江美子

畑（男二人　女二人）
杉本秀樹　二宮早苗　田村千恵子

須賀（男四人　女二人）
井上正春　長口義弥　竹本多賀
琴　山口敬誠　米沢令美　大本利
津子

久保（男三人　女一人）
松田光一　井上秀作　樹田昌明
山口美智子

西（男一人）
高木義政

二見（女一人）
川崎明美

加崎（男二人）
二宮信輔　村上徳行

古屋敷（男一人　女一人）
佐々木秀也　上野繁子

大成（男一人　女一人）
吉田太郎　二宮千恵

伊方町県民たすけあい総参加運動推進協議会を設立

ひろげよう　しあわせの輪

わたしたちの身のまわりは、経済の高度成長によって、物の豊かさをもたらしました。

しかし、その反面、人と人とのつながりや共同社会意識の低下という問題を残しました。

真の福祉社会の実現のためにはこうした社会のひずみを是正する必要があります。

そこで県では「県民たすけあい総参加運動」を進めていますが、本町でも県の主旨に賛同し、十一月十二日「伊方町県民たすけあい総参加運動推進協議会」を設立しました。

社会の連帯意識を高めるには、民間の社会福祉活動が活発に行われ、公的施策と相まって推進されなければなりません。なかでもボランティア活動（社会奉仕活動）は、善意のすべての人におよぼすものであり、人間愛、社会愛の回復を人々に呼び覚ます尊いもので、その役割はきわめて大きいものがあります。

本町の協議会の構成団体も青年団、婦人会、老人クラブ、VYS、区長会等多彩で、こうした団体が中心となり心のふれあい活動を積極的に展開することによって、町民のしあわせの輪をひろげ、豊かな町づくりにつながるものです。こんどこの運動がより活発に推進されることを期待するものです。

なお、町の昭和五十一年度事業を見てみますと

○「奉仕の日」の制定
県民たすけあい総参加運動の浸透をはかるため、月一回「奉仕の日」を定めて奉仕活動への参加を呼びかける。

○ボランティア学級の開催
社会奉仕活動の経験者を対象にしてボランティア学級を開催するなどの計画がなされています。

同協議会の役員さんがつぎのとおりきまりました。

会　長　山本　長松（社会福祉協議会長）
副会長　茅田　五郎（民生児童委員協議会会長）
〃　菊池マシエ（町連合婦人会長）
幹　事　小川　田子（ともしび母親クラブ連絡協議会長）
〃　渡辺高十郎（老人クラブ連合会長）
〃　田縁　芳子（伊方町農協婦人部長）
〃　三根生シゲミ（町見農協婦人部長）
〃　平井千代子（町見漁協婦人部長）
〃　松田　哲子（母子福祉会長）
〃　吉川　文教（VYS連絡協議会長）
監　事　阿部　嘉明（区長会長）
〃　兵頭　親正（青年団協議会長）

心のこもった手づくりの贈り物

大浜・有寿来保育所へお手玉・手まり

大浜、有寿来両保育所に子どもたちがよろこび、昔なつかしいお手玉（八十個）と手まり（七十六個）が届きました。

贈り主は、加茂の渡辺アサヨさん（八十一歳）です。

渡辺さんは、いままで町内の各保育所へお手玉と手まりをそれぞれ贈りつづけており、ことしで全保育所に行きわたりました。

色とりどりのお手玉、糸で美しくあしらった手まり、本当に心のこもった手づくりのあたたかい味が伝わってきます。

こどもたちは、思わぬプレゼントにおおはしゃぎです。

幼い心の夢をはぐくむ、このすばらしい贈り物を使って、こどもたちは毎日を楽しくすごすことでしょう。

渡辺のおばあちゃん、毎年どうもありがとう。

紙上より厚くお礼申し上げます。

いつまでもお元気で長生きしてください。

記事訂正

先月号四面「人」お誕生おめでとう欄で三好英一郎　二男　徳和　となっていますが、五男　徳和のあやまりにつき、訂正しおわび申し上げます。

伊方の若人

①職　業　②趣　味
③好みの異性タイプ
④伊方町をどう思いますか
⑤町づくりに対する希望

池田俊彦さん

奥　20歳

①明けましておめでとうございます私、大工としてがんばっています
②スポーツとレコード鑑賞。それにテレビマンガを見るのも趣味の一つです。
③明るくて素直な女性。自分では持てるほうだと思っているんですが、現実はどうも／町内の若き女性のみなさん、よろしく……
④人情味があって、つき合いやすい人たちの住んでいる町だと思います。人情味はいつまでも大切に育てたいものです。
⑤原子力発電所、国道バイパスの建設によって、町は三崎半島の排町として大きく発展することと思いますが、町民の住みよい明るい町づくりを希望します

泉　幹子さん

大浜　21歳

①郷かしい新春おめでとうございます。銀行に勤務しています。
②ショッピングと音楽鑑賞。それにもう一つおいしいものを食べ歩くこと。
③誠実でやさしくて、頼りがいがあって、明るくって欲を言えばハンサムで……きりがありません。
④もちろん住み良い町ですが、何よりも住んでいる人たち誰もが、それ以上に良い人たちばかりだと思います。伊方はこれからどんどん発展して行く町だと思うし、発展しなければならない町だと思います。
⑤平坦地のない伊方町ですから無理かも知れませんが今の自然をこわさないでより住み良い環境設備を手がけて欲しいと思います。

寄稿欄

ふるさとに想う

泉佐野市　清水寿満子（亀浦出身）

朝夕に想いを馳せしふるさとを載せし広報丹念に読む
ふるさとの八十路の叔母の経いましし袖屈きめ便りも添えて
幼なき日祭り太鼓の聞こえ来しふるさとの丘野菊花咲く
雪花の舞い散る野辺や父母も居ましし夢の覚めしを惜む
姑の座にある友も遠き日の乙女心にかえりて集う

人

昭和51年11月末現在
世帯数2,547戸（－1戸）
人口 9,098人（＋7人）｛男4,326人（＋1人）女4,772人（＋6人）｝

えんむすび

昭和51年11月1日
11月30日

お誕生　おめでとう

昭和51年11月1日
11月30日

おくやみ

昭和51年11月1日
11月30日

＝お礼＝

神戸市長田区腐塚町九丁目一の二にお住いで銘菓店「福井堂」を経営されている福井東氏（仁田之浜出身）より五千円。

松山市別府町四七四にお住いで「あかつき荘」を経営されている青山吉好氏（川永田出身）より三千円。

福島市飯坂町平野字明神脇二二の四にお住いの菊池孝芳氏（川永田出身）より五千円。

大阪府泉佐野市上町名店街「かつらぎ銘菓店」内にお住いの清水寿満子さん（亀浦出身）より一万円。

それぞれ広報編集の費用にとご寄付いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともにご健康とご活躍をお祈り申し上げます。